

# 伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第43号

発行日：平成21年11月1日  
発行：伊丹市文化財ボランティアの会  
発行所：伊丹市千僧1丁目1番地  
伊丹市教育委員会事務局内

## 年末に向けて

後藤 昌弘

巻頭言の原稿依頼を受けたもののいつものことながら、ギリギリにならないとエンジンのかからない悪い癖、いよいよ期日迫ってやっと・・・さて何を書こうか・・・早いもので今年も余すところ二か月になりました。今年もいろいろありました。政変もそろそろ詳しい動きがあっても良いのと思われるこの頃です。このところちょっと「根」をつめてやるのがあって、少しましになっていた腰痛がぶり返してトンと動きの悪い毎日をおくっています。体調のことで言うと昨年のちょうど今頃「心筋梗塞」のカテーテル手術で入院の最中でありました。検査のつもりで紹介された市民病院の循環器内科の部長、「ようこんんで自転車で来たな」と言われて即入院、いきなりストレッチャーに乗せられて病院内を走った。ついてきた妻もびっくり、本人もびっくり、幸い早い処置でいのち永らえて今日あることに感謝しています。ちょうどその一年前に一回り歳の違う兄が「心臓大動脈乖離」で大手術を受けたので気にはしていましたが・・・、まさかの事件でした。この時期、イベントもたくさんある時期、季節の変わり目皆さんも気を付けてください。のど元過ぎればなんとやら・・・で最近では食事や生活面でも注意散漫になっています。私の周囲でも脳梗塞・心筋梗塞・・・結構多いようです。悪性のインフルエンザにも気を付けて、忘年会・新年会も控えめに・・・来年も楽しくボランティア活動が続けられるように励みましょう。巻頭言には相応しくない雑な短文ですが、これにて失礼を・・・



## 伊丹ボランティアまつり

細川 勝海

10月4日（日）に伊丹ボランティアまつりが開催されました。市役所周辺のバザール・昆陽池公園でのミニSL列車運行・中央公民館に於ける展示会や講演会・博物館から行基を訪ねる歴史ウォーク等々が実施され、どれも多くの市民で盛況でした。私は、歴史ウォークのガイドで同行しましたが、文化財ボランティアの会のメンバーも多数参加され、市民

の皆様を先頭に西国街道から昆陽寺を経由して行基道を進み、途中、昆陽井の流れに道草しながら最終目的地である昆陽池に到着しました。市民の方々も、伊丹に居ながらこんな所へ来たのは初めて！という方がほとんどで、楽しく散策できたものと思います。尚、ガイド地点での担当者は、次の通りです。首切り地藏（坪倉）、長勢橋・昆陽本陣・昆陽宿（細川）、昆陽寺・昆陽井（中川）、昆陽池（川上）でした。昆陽池に到着したときには、ミニSL列車の運行は終了しており、残念ながら乗って遊ぶ事は出来ませんでした、

例のメンバーによる散策疲れを癒す乾杯はこの上ないものでした。ボランティアまつりを振り返ってみますと、実行委員会はあるものの、どこが主体なのか、誰が責任者なのか、傍から見ていると良く理解できません。その中でも、文化財ボランティアの会のメンバーが多数出席し、

積極的に行動しておりましたので、ボランティアまつりに相応しているのかとも思いましたが、もう少し役所を巻き込んで、事業費の予算化を検討してもらう必要がある様に思います。



## 伊丹ボランティア祭り 文化講演会を聞いて

松木 直志

10月4日に行われた伊丹ボランティア祭りの一環として 森本啓一氏の「8つのエピソードで綴る伊丹の昭和史」の講演会がありました。当日の入場者を心配して会員の皆様の参加を呼びかけたほどでしたが予想に反して多くの来場があり満員の盛況でした。

8つのエピソードはそれぞれ興味深かったのですがやはり「司馬遼太郎が書いた正岡家の人々」が良かった。正岡子規のご養子さまの家が西台にあるのはみな

様もご存知だと思います。いまだに阪神タイガース優勝のペナントが張ってありますね。その正岡家を司馬氏が訪ねたとき道に迷い酒屋のおじさんに案内してもらった話しなどは今でもその酒屋も正岡家もあるだけにたいへん面白いですね。正岡家で同席した産婦人科医の渡辺先生の病院で私の姪が生まれました。その姪の子供が今年は中学生です。そんなころの話しなのですが。

NHKのドラマで「坂の上の雲」が放映されます。主人公の一人が正岡子規ですので、正岡子規・司馬遼太郎・伊丹と思いをめぐらせながらテレビをみるのも楽しいかもしれません。



## 「粉河寺縁起絵巻」を見て考える — 中世の絵巻の重要性 —

中川 康

風猛山粉河寺は西国第三番札所であり、粉河観音（千手千眼観世音菩薩）の靈験で名高く参詣人が多かった。江戸時代に再建された本堂は二重の正堂に一重の礼堂を複雑に組み合わせた八棟造りといわれる様式である。本堂が大きく立派であるだけでなく、本尊の粉河観音を安置する内陣も西国三十三ヶ所で最大であり、内陣周囲の龍の彫刻も見事である。内陣の傍らに、「粉河寺縁起絵巻」の複製品が展示されている（国宝の原本は京都国立博物館に保存されている）。この絵巻を眺めていると、いろいろな問題が浮かんでくる。

「粉河寺縁起絵巻」は、紙本着色、一卷、全五段、十二世紀後半ないしは十三世紀始め頃に成立したと考えられている。後白河院の蓮華王院堂宝蔵に納められた絵巻の一つに数え挙げられることが多いが、詞と絵とが同じ両紙に書かれ、描写には簡素さが認められる点などから、副本的な性格を考慮に入れておく必要がある。一卷には粉河寺の本尊である千手観音像の造立譚と靈験譚との二つの物語が描かれている。前編は、粉河に住む獵師が山中に光の発するを見て、仏堂を建て仏像を造りたいと願っていたところ、ひとりの童の行者が現れ、七日のうちに千手観音像を刻んだ話。後編は、河内国讚良郡の長者の一人娘は不治の病にかかっ

ていたが、ひとりの童の行者が現れ祈禱を行って娘は治癒し、礼として娘が捧げた袴とさげ鞆（短刀）のみを受け取り、長者からの礼物を受けず、住所を粉河だとだけ告げて姿を消した。長者一家はその地を尋ね、山中の庵の千手観音像が娘の捧げた袴とさげ鞆を持っているのを発見し、その前で出家を遂げるという話。絵には焼損も多いが、長尺の場面に同一背景の反復を用いながら、視点の距離を一定に保って、淡々と物語を追ってゆく。この絵巻には、直接に合戦の場面が描かれている訳ではないが、当時の武士の姿・本質に迫ることも出来る。武士に対するそれまでの定型的な理解は、「在地領主」的武士論と言われる。武士を在地領主として把握し、平安時代に進行した地方政治の弛緩により、在地有力者が自ら武力を蓄えるようになったとする。こうした自然発生的な捉え方に対し、武士の本質として、社会的分業としての職能に注目する「職能」的武士論が現れた。地方においては、国衙で編成される武者であって、諸国の一宮の祭祀儀礼や国司の巻き狩りに参加する。かたや京都の貴族社会に武士の出発点を置く考え方では、王朝や貴族の護衛を任とし、武芸を家業とする芸能者として捉らえている（1）。

中世の絵巻物といえば、何を思い出すか？「鳥獣人物戯画」、「源氏物語絵巻」、「伴大納言絵巻」、「信貴山縁起絵巻」、「春日権現験記絵巻」、「粉河寺縁起絵巻」、そして「百鬼夜行絵巻」までも脳裏に浮かぶ（中世の開幕を院政開始の頃と考える）。

絵巻物とは、絵入りの絵巻である絵因果経などを先行表現とし、絵と文章（詞書）

とを交互に記して、鑑賞者が物語（縁起、伝記等）の流れを追うことを容易にした一種の芸術である。確かに、鎌倉時代後半から室町時代にかけて、絵巻物は寺社縁起といった形（絵解き物）を通して民衆と接触して通俗化していった。しかし、院政期に作成された絵巻物の多くは、民衆とは無縁の、朝廷を中心とする少数者のための贅沢な宝であった

し、また政治的にも大きな意義を有する品物であった。

絵巻物の制作が盛んになったのは、院政期とりわけ後白河院時代であった。後白河院は、院の居所である蓮華王院（法住寺殿御所）に千一体の千手観音（蓮華王）を納め、自己の権力の象徴としたが、また多くの絵巻物を制作し蓮華王院の宝蔵に秘蔵して、時空の保存庫を支配する者が王権の主宰者であることを示した。小松茂美氏によれば、公卿日記等の諸々の記録から、後白河院が次の8点の絵巻物を描かせたことは明確だとしている（2）。

「保元相撲図絵巻」、「保元城南寺競馬絵巻」、「玄宗皇帝絵巻」6巻、「仁安御禊行幸絵巻」7巻、「後三年合戦絵巻」4巻、「承安五節絵巻」3巻、「年中行事絵巻」60巻、「末葉露大将絵巻」

これらはすべて焼失あるいは散逸して現存しない。後白河院がこの「年中行事絵巻」を制作した意図は、保元・平治の両度の戦乱に炎上した大内裏を復興し、しかも、朝議の復活に備えるためのものであったろう。となると、これは絵巻とはいうものの、他の文芸作品に取材する、鑑賞本位の絵巻とは、いささか性格が異なる。

鎌倉時代にも、「春日権現験記絵巻」や「一遍聖絵」といった超大作がいくつも制作され、絵巻に憑かれた権力者も散発的に現れた。絵巻を京から鎌倉へ取り寄せた源実朝、絵画マニアであることを自らの日記で告白した花園天皇が有名である。室町時代の足利家歴代の將軍たちはほとんどが絵巻制作に関与するようになり、絵巻コレクションの形成と継承は、権力の象徴として自覚されるようになった。絵巻を制作させる政権主宰者が連続的に登場する室町時代は、絵巻にとっても一つの黄金時代だったと考えられる。なかでも、天皇、上皇を凌駕した権力を手中にした足利義満は、その権威をまざまざと見せつけるために北山亭にて「絵合」を開催した。古今の絵画、特に絵巻

を一同に会し、左右二組に分かれて、優劣を競い合うという、風雅にして華麗なる遊興である。名品である「春日権現験記絵巻」も春日大社から出品されたという。この絵巻の開催により、出席者に有名な「源氏物語」中の「絵合帖」を思い出させ、義満が光源氏を演じていることを思い知らしめた。また、義満は「鹿苑院殿東大寺受戒絵」や「目連尊者絵」を制作させた。足利将軍家、室町殿は以下の絵巻を所有していたと考えられている(3)。

「大神宮法楽寺絵」5巻、「泊瀬寺縁起」3巻、「粉河観音縁起絵」7巻、「地蔵験記絵」6巻、「十二神絵」、「泰衡征伐絵」10巻、「目連尊者絵」3巻、「和田左衛門尉義盛絵」7巻、「平家絵」10巻、「清少納言枕双子絵」2巻、「むくさい房絵」1巻、「三寺談話絵」5巻、「地蔵験記絵」6巻、「貞任宗任討伐絵」3巻、「稻荷縁

起絵」8巻、「鹿苑院殿東大寺受戒絵」5巻、「赤松円心合戦絵」11巻

このように、絵巻物は、権力者が興味でそれを制作させたというだけでなく、権力の在り様を示す重要な品物であったことが解る。

参考文献

(1)「別冊歴史読本58 合戦絵巻・合戦図屏風」(新人物往来社、2007)

(2)小松茂美「日本絵巻聚稿」(中央公論社、1989)

(3)高岸 輝「室町絵巻の魔力 再生と創造の中世」(吉川弘文館、20



## 思い出の世界遺産 「バルト三国」 エストニア・ラトビア・リトアニア

山内 富美子

今回は、私たちにとって、なじみの薄い北ヨーロッパの小さな国々のバルト3か国、エストニア・ラトビア・リトアニアの世界遺産に、焦点を当てて紹介したい。

かつては、ソ連邦の中にあつたバルト3か国は、1991年に独立して、それぞれの道を歩みはじめた。3か国とも北海道よりも小さな国であるが、それぞれの言葉を持ち、毎日使う貨幣も、その単位も違っている。各々の国には、長い歴史と文化があり、それぞれの国の

首都、即ち、エストニアのタリン、ラトビアのリーガ、リトアニアのヴィリニュスの三つの首都の旧市街が、すべて世界遺産に登録されている。

一番北にあるエストニアは、バルト海沿岸に面し、その首都タリンは、フィンランド湾を臨む港町である。中世の空気



を今に伝えるタリンは、旧市街全体が世界遺産で、トームペアと呼ばれる丘の上から見下ろすと、教会の高い塔や赤い屋根の建物が目に付くおとぎの国の世界が、広がっている。エストニアは、古代デン



マーク人・チュートン騎士・スエーデン人・ロシア人・ドイツ人・旧ソ連人など他国の影響を受けた歴史を持っているので、そのことが文化遺産にも色濃く残されている。騎士団の建てた、のっぽのヘルマン塔のあるトームペア城、ロシア正教のアレクサンドル・ネフスキー聖堂、元は、デンマーク人が建設した大聖堂、ドイツ商人居住区に建てられた聖ニコラス教会、北欧に唯一残るゴシック様式の旧市庁舎などが、世界遺産のタリンの街中にあり、地図を片手に自由に歩き回った思い出の場所である。

次に3カ国の中央に位置するラトビア



ラトビア・リーガの  
ブラックヘッドのギルト

は、周辺大国に翻弄された歴史を持つが、13世紀末にハンザ同盟に加入したことから、ドイツの雰囲気を色濃く残す美しい国である。首都のリーガは、バルト3

国最大の都市で、豪華な装飾の建築のオンパレードには、見ていて飽きることがない。世界遺産のリーガ歴史地区には、リーガ大聖堂・聖ヨハネ教会・聖ペテロ教会など数々の教会や、大時計・彫金細工・彫刻で飾られたブラックヘッドのギルドや、猫の家・3人兄弟という商家などそれぞれ由緒ある建物がああり、興味津々の見学だった。

最も南にあるリトアニアは、深い太古の森林・4千に及ぶ湖・海岸沿いの砂丘など多彩で豊かな自然に恵まれた国で、穏やかな柔らかい雰囲気が人々をリラックス

させてくれる。

首都ヴィリニユスの歴史地区は、世界遺産への登録が“なるほど”と思えるほどで、すばらしい教会建築と内部の芸術的装飾には、目を見張る。ヴィリニユスのシンボルである三聖人を掲げる大聖堂・ナポレオンが「我が手に収めてフランスに持ち帰りたい」と絶賛した聖アンナ教会・一つとして同じものがなく2千以上の彫刻のある聖ペテロ&パウロ教会・聖母イコンが奇跡を起こすという夜明けの門など枚挙にいとまがないほど見るべき所は多い。又、近郊には、湖上の島に築かれた赤レンガのトゥラカイ城があり、その水面に映える美しさには、ほれぼれする。“日本のシンドラー”と呼ばれている杉原千畝さんが、ビザを書き続けたというカウナスの旧領事館の彼の机に座り、その時の彼の心情を思いやる。六千人以上のユダヤ人を救ったという彼の功績を讃え、ヴィリニユスには、記念像や、彼の名の通りや、桜の植樹も行われている。最後に、信仰心厚いカトリックの国リトアニアの北部に、心に深く焼きついた風景として、無数の十字架が立ち並ぶ“十字架の丘”が存在することを付記しておく。



リトアニアの十字架の丘

## 主な活動記録

市民ガイド実施表 (09.08～09.10)

	2009年8月		2009年9月		2009年10月		09.04～10月累計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
月							1	15
火					1	30	4	100
水					1	37	3	117
木					3	145	6	212
金			1	35	1	20	6	126
土			1	52	1	40	3	77
日					1	10	2	25
計	0	0	2	87	8	282	25	712

## ガイド内容

9/18(金) 岡田家 近鉄友の会(大阪) 9/26(土)岡田家 伊丹市アピールプラン推進協  
10/ 1(木) 岡田家・石橋家 さつき盾友の会(吹田) 10/1(土)A コース 尼崎ボランティアガイド  
10/ 9(金) 岡田家・石橋家 ときわ台寿楽会(大阪) 10/15(木) A コース シルバーカレッジ(神戸)  
10/17(土) 有岡城跡 明智光秀顕彰会(大津) 10/18(日) A コース 阪神北ビジョン委員会(宝塚)  
10/21(水) 岡田家・石橋家 竜野商工会議所 10/27(火)岡田家 香寺歴史研究会(姫路)

## 木曜日G屋外研修

10/27(火) 宝塚の巡礼街道を歩く(ガイド 宝塚市教育委員会 直宮憲一氏)

## どんぐり座

9/16(水) 伊丹市学校支援地域本部へ、学校応援ボランティアとして登録。今後、各小学校から要請があれば赴き、紙芝居・ペープサートを上演する。  
現在新題目の紙芝居及びペープサートの制作を進めている。

## 伊丹ボランティアまつり

10/4(日) 市役所周辺で開催され、パネル展示と歴史文化講座(伊丹の昭和史)、歴史ウォーク(行基の足跡をたどる)を開催し好評であった。

## 歴史ロマン体験学習支援

8/8(土) 勾玉づくり 9/5(土)埴輪づくり成形 10/17(土)埴輪づくり野焼き

## 今後の予定

定例会 11/10(火)兼研修バス旅行 12/8(火) 1/21(木)兼新年会 12月注連縄づくり  
ガイド 現在11月4件 1月1件の予約を受付。  
伊丹ロマン事業の支援(11/1～11/18) 歴史ロマン体験学習の支援(毎月1回)

## 編集後記

5月に国内で初めて感染者が出た新型インフルエンザがここに来て大流行の兆し。幸いにも今のところ新型インフルエンザに罹った会員はいないと聞いている。手洗い・うがいの実行、マスクの着用で感染せぬ様にしたいものだ。今号は文章主体の内容となったが期日までに発行できて一安心・・・それにしても3ヶ月は早い。(TR)